

ベトナム・ナウ(2011年) ホーチミン市 市内の名所

大昔ここは沼地で大陸からメコン川を南下してきたクメール人が集落を築いた所と言われている。勿論その面影は市内に残っていない。ただ、近代の複雑な歴史を思い起こさせる建物が市の中心街にあり、観光客で賑わっている。

統一会堂(旧大統領官邸):

市の中心部にある広大なフェンスに囲まれた中に白亜の建物がある。ここは近代史の中で変遷を繰り返した場所でもある。フランスの植民地時代にここはフランスの総督府としてノロドン宮殿が建立された。その後独立をはたしたベトナム共和国(南ベトナム)によって独立宮殿と呼ばれた。しかし、クーデター騒ぎで爆撃を受けて壊されてしまい。現在あるのは二代目(1966年)のもので共和国の三代に渡って大統領府及び官邸として使用された。

1975年サイゴンが陥落して南北が統一された後は政治の中心は北部に移されたが「統一会堂」と名称を変えて、国際会議等に利用されている。一般公開されているので内部の様子を見学できる。大統領の執務室、内閣会議室、講堂やバンケットルーム、官邸の食堂、応接室、図書室だけでなく、有事の際の作戦司令室からヘリポートまである。往時の状況が偲ばれて興味深い。



ベトナム人建築家の設計といわれているこの四階建ての建造物は柱に特徴があるが過度な飾りもなくすっきりした印象を持つ。もっとも地下は空爆にも耐える頑丈な作りになっているらしいし、いざという場合に逃げるための地下トンネルも在るといわれている。敷地内にはサイゴン陥落の留めになった、北ベトナム軍のソ連製戦車が展示されている。

左の写真は大統領のお立ち台バルコニーから正面広場を撮ったものだが、この方向から戦車隊がフェンスを越えて進入し、大統領府が占拠されて南北統一が成立した歴史的な場所である。その様子はニュースで世界的に報道されたので、

私も見た記憶がある。平和になった今、正面の森は市民文化公園として憩いの場になっているし、その向こうには近代的なビルが並び、経済都市として発展してきている。

丁度私が見学した時に小学生の団体が講堂で先生の話聞いていた。その他にも高校生くらいの少年少女が団体で解説を聞きながら見学していた。植民地から独立をはたし、ベトナム戦争を経験して、南北の統一したまでの近代史を学ぶ格好の場所になっていることが伺われる。この他にも市内には戦争博物館があるが、私は行かなかった。

植民地時代、サイゴンは「東洋のパリ」と呼ばれていた。コーチシナの総督府だったノロゴン宮殿は破壊されてしまっているが、周囲に欧風建物がまだ残されている。

人民委員会とホーチミン像：



人民委員会（市庁舎）の建物はいかにも欧風コロニアル様式だ。植民地時代は何に使われたか知らないが、おそらく植民地統治の政庁舎だったと思われる。その前の広場にニューベトナム建国の父、ホーチミン像がある。女の子を膝に抱いている像で親しみがある。ガイドの Linh さんの話では、「ホー爺さん」と親しみを込めて呼んでいるのだそうだ。いかにも偉そうに見える大きな立像でない所に人柄を感じさせる。

サイゴン大聖堂と記念写真：



大きな広場の中央にマリア像が立ちその背後にカソリックの大聖堂がある。尖塔の高さが40mあるので大きく堂々とした建造物である。

植民地時代の建設で使用した赤レンガは全てフランスから運んできたものと言われている。その当時はノートルダムキャセドルと呼ばれていて、まだ地図にはその名が残っている。

今は使われていない。内部の見学も短時間しか公開していない。しかし、ここは背景にしての記念写真のメッカになっている。観光客の記念

写真だけではない。ここは結婚したカップルの記念写真スポットとして大人気でもあるようだ。この日も二組のカップルを見た。海外では結婚式のあと屋外の景色の良い場所で写真を撮り、それを記念アルバムに編集することが普通

に行われている。プロの写真家がカップルにいろいろなポーズをとらせて写真を撮っていた。助手がヴェールの裾を上投げて、ひらひらと降りて来るところを撮る。なかなか演出も凝っていた。

市民劇場（オペラハウス）：

大聖堂からそう離れていない所に植民地時代のオペラハウスがある。今は市民劇場に名称を変えている。

内部がどうなっているか興味があったが、素通りしてしまった。



中央郵便局：

大聖堂の道を隔てた隣にある大きな欧風建物で一見郵便局と思えない。迎賓館みたいな外観だが、植民地時代に郵便局として建てられ、今でも中央郵便局として使用されている。



右の写真が正面から入った所で両側に郵便物を受け付ける窓口になっていた。手前に国際電話が掛けられる電話ボックスがあり、両袖に絵葉書だけでなく、クラフト製品や観光案内の本や写真集を販売しているお土産屋が続く。中に居る人は殆ど観光客であり、欧米の人たちが多かった。

薄い桃色を基調にしたこの建物はまだ現役の郵便局で自由に出入りできるので観光客に人気の場所で、この売店で絵葉書を購入して思い出として自宅に、友人に郵便を投函する人が多いと Linh さんが言っていた。

中に入ってみるとドーム状になっていて、鉄道の駅舎にでも入ったような感じがする。



郵便局の門の入り口に二人の美女が左右に分かれて、民族服のあおざいを着て、それぞれポーズをとり観光客の被写体になっていた。おそらく「ミスサイゴン」かなにかで、観光大使として、サービスしているのだろう。日曜日だけらしく、翌日ここを通過したときにはもういなかった。

バックのピンク基調の建物と原色のあおざいは良くマッチしている。

ちなみにベトナムの女子学生の制服は真っ白なあおざいである。下校時に学校近くで集団で居るのを見掛けるが、街中で見るのは少ない。家に帰ると着替えるのだろう。



左の写真は入り口前の物売りのリヤカでちょっとしたパンやスナック、それにジュースや飲料水が売られていた。暑いので、売り子は木陰に居て仲間同士で会話をしている。

大聖堂周辺とそれに続くドンコイ通りがサイゴンの面影を残している。

